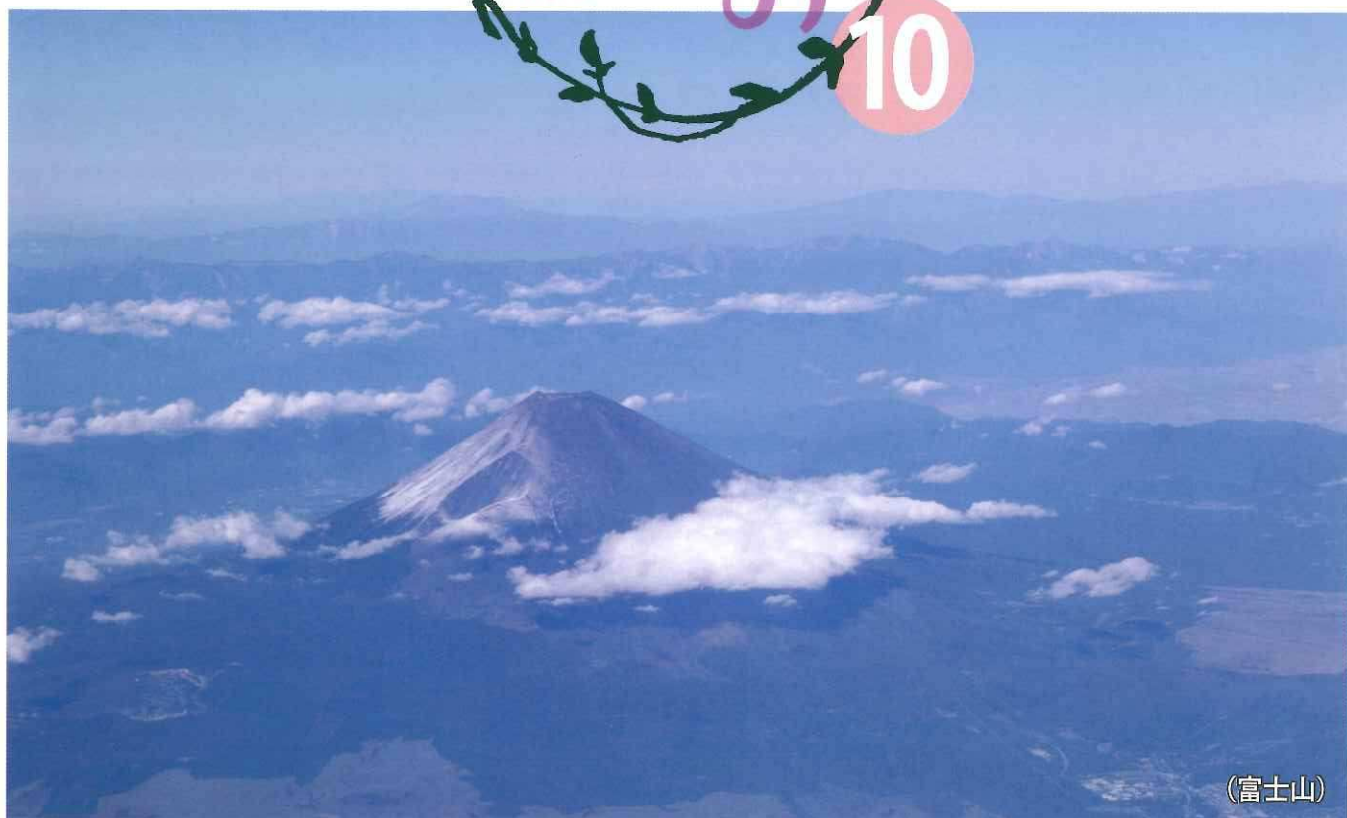


南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
発行人 脇阪 義幸  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(富士山)

## 主体性のない我が身

昭和三十五年、私が二十三歳の時、宗祖親鸞聖人の七〇〇回大遠忌法要が勤まった。その時、西徳寺からの団体参拝の準備を手伝った。更に、五十年後の平成二十三年五月、七五〇回大遠忌の法要にも再びご縁を頂き、その時は、佛光寺教団として責任ある立場にあった。早速に突きつけられた課題は「なぜ大遠忌を勤めるのか。勤めずにはおれない理由は何か」教団の課題であり私自身へ問われている根本問題でもあった。あり合わせの答弁では間に合うはずがない。出だしから立ち止まりをくらわされた。

この時、掲げたスローガンが「南無阿弥陀仏は私のいのち」と決定したのである。振り返るとこのお寺に入寺して六十二年間、主体性をもって事に処すことは一度もなかった。大学に入ったのも先輩の進め、三十七歳で代表役員の職をあたえられたのも、先代の心筋梗塞による突然の急死が原因、佛光寺派の宗務総長も度重なる強引な要請を受けて説き伏せられた。思えばこの八十年間、何の願いもなく要求も持ち合わせないまま、与えられた御縁の中で生かされてきたようだ。

折しも大谷派から提示されたスローガンは「今、いのちがあなたを生きている」であった。「南無阿弥陀佛は私のいのち」のテーマに符合する言葉として我が身に響いている。自我をベースに暮らしている日常、抛り所にならない自我からの解放こそ九十年を歩まれた親鸞聖人の仰せではないか。七五〇年をかけて私に働きかけてくるいわれこそ大遠忌の要である。

(大谷 義博 記)



ほうおんこう  
**報恩講へのお誘い**

「念仏者は 無碍の一道なり」(歎異抄第7章)

報恩講は、親鸞聖人のご命日(旧暦で11月28日、新暦で1月16日)につとめられる「報恩のつどい(法要)」であります。

私一人を救わんが為、南無阿弥陀仏の法を届けていただいた阿弥陀さま・親鸞さまのご恩にお礼を申し上げ、お徳をお譲りする、年に一度の大法要です。

親鸞さまは、本願(阿弥陀様が、すべての生きとし生けるものに、わけへだてなくかけられている普通の願い)・念仏の一道こそ、祈りや占いやおそれ、たたりの入る余地のない「まこと」とであると、説き明かして頂いたのであります。

西徳寺では、例年の通り下記のごとく【報恩講】をおつとめ致します。この大切なご縁に、ご家族・お知り合い皆様お誘いの上、お参りくださいますようご案内致します。

### 11月4日(土)

- 7時30分 晨朝 (朝のおつとめ)  
10時 初日中 (午前のおつとめ)  
法話：中井賢隆先生[最勝寺住職]当寺顧問  
12時 おとき (食事接待)  
13時30分 大速夜 (午後のおつとめ)  
法話：中井賢隆先生[最勝寺住職]当寺顧問  
15時30分 御伝文拝読 (聖人のご生涯)

### 11月5日(日)

- 7時30分 満晨朝 (朝のおつとめ)  
10時 満日中 (ご満座のおつとめ)  
法話：中井賢隆先生[最勝寺住職]当寺顧問  
11時30分 記念演奏 西徳寺混声合唱団「エコー」  
12時 おとき (食事接待)  
13時30分 奉讃法座 主催：西徳寺婦人会  
《玉川奈々福のほとばしる浪花節を楽しむ!》  
「親鸞聖人御伝記 六角堂示現の巻」「金魚夢幻」  
浪曲師：玉川奈々福 曲師：沢村豊子

※おときのお申し込みは、**10月23日(月)まで**に同封のハガキにてお願いします。

なお恐縮でございますが、法要執行のため**ご懇志の上納**を宜しくお願い致します。

## 仏具磨きのお誘い

11月5日(土)・6日(日)の2日間、西徳寺の本堂で親鸞聖人の報恩講をお勤めいたします。今年も昨年同様、本堂のお荘厳や会館お内仏の仏具磨き、合わせて本堂や境内等の清掃をお手伝いいたしたいと思います。ご多忙のこととは存じますが、ご協力のほどお願い申し上げます。

綺麗になったお荘厳で、ご一緒に親鸞聖人の報恩講をお勤めをいたしましょう。

尚、当日は昼食をご用意いたします。ご都合の付く方は是非ともご参加ください。

期 日 平成29年10月25日(水) 午前10時から  
(雨天の場合、翌26日(木)に変更いたします)

場 所 西徳寺境内

※参加いただける方は、**10月21日(土)まで**に寺務所までご連絡ください。

TEL.03-3875-3351

(主任 木村 記)



# 親鸞さんのことば

「強縁、弘誓の多生にも値い難く、眞実の浄信、億劫にも獲難し。遇、行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。」  
「教行信証」の「総序」

松井憲一

冒頭の言葉は、先月の『教行信証』

の「総序」の続きで、お念仏は奉えるものであり、信心は崇めるものといただいた、深い因縁が語られます。親鸞聖人は、千歳一遇の出遇いの感動を「噫(あゝ)」といわれて、「噫、阿彌陀仏の弘大な誓いの強いはたらきでも、生をいくたびかさねても値えるものではなく、眞実で清浄なる信心は、はるかな劫(とき)を経て獲ることはない。たまたまわが思いを超えて行と信を獲たなら、はるかむかしからのよくよくのご縁があったのだと慶ぼう」といわれました。

「肝臓に ついて語って  
飲み明かす」「酒ならば 一升  
瓶も 重くない」という人も、

「臨終の 母へ全身 耳になる」ことがあります。自分を善とし他を悪として、悪人さがし善人ごっこをしながら、聞法の場にも身を置きます。聞法の座にありながら、法を聞かずに話を聞いて、生活に役立てようとはしません。どこまでも、頑なに自己肯定にしがみつくと共に、阿彌陀仏の弘誓は、いかに強縁であつても安易に響いてきません。頭を上げることしか考えないわれらが、南無阿彌陀仏と頭が下がって「噫」と出遇うのは、まさに難中の難であります。

すべての人を平等に救いたいという阿彌陀仏の弘誓は、強縁ですから、久遠の昔からはたらき続けているのです。しかし、私たちは強縁があつても、不足や不満を積み重ねて迷い続けていくのが普通であると思つていきますから、何遍生まれ変わつても、「多生にも値い難い」といわれます。にもかかわらず、迷いを感じてそれを離れようとする心、道を求める心がおこります。

それで、「眞実の浄信」を起こそうとするのですが、「眞実の浄信」は、自我がひるがえされた眞実で清浄なる信心のことですから、「り

やくより りえきもとめる 寺社参り」するような心でおこすことはできません。眞実で清浄なる信心は、弘誓の強縁の呼びかけに応じて目覚めるころですから、私の思いでどれほど積み重ね深めてみても、手に入れることは不可能なのです。そのことを確かめて「億劫にも獲がたし」と、どれだけ時間をかけたとしても獲ることはできないといわれるのです。

その獲られるはずのない信心が、獲られた。それで「遇(たまたま)」といわれるのです。おこるはずのない「行信(お念仏の信心)を獲る」という異質の出来事が、今、この私の上におこつた。不可能としか思えない、不可思議としか思えない事実が、現におこっている、その感動を「遇、行信を獲ば」といわれるのでしよう。だから、たまたまのご縁を「遠く宿縁を慶べ」と勧められるのです。お念仏にあえたのは、祖父母や両親、よき師よき友のご縁によることが多いのですが、その原因を遠くさかのぼっていくと、

仏法にあえたのは、「宿縁」であつたと、深くよろこぶるといわれるのです。

「宿縁」は、「前世からの縁」のこと

とですから、わたしたちの迷いの歴史と共に歩んで仏法を伝えてくださった人々の奥底に流れている阿彌陀仏のはたらきをあらわします。だから、阿彌陀仏の因位の法蔵菩薩のご修行にまでさかのぼって、「遠く宿縁を慶べ」といわれたのです。

聖人が、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ(『歎異抄』)との、つねのおおせが思いあわされます。

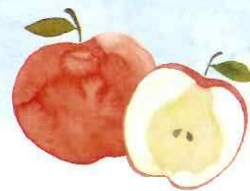




# 山門の言葉

## 育てない 手助けするだけ

木村 秋則



今回取り上げさせていただくのは、リンゴ農家・木村秋則さんの言葉。

木村秋則さんは世界初の無農薬・無施肥リンゴの栽培に成功し、現在は「自然栽培」の啓発活動を精力的に進めておられる。

今日では、「無農薬」という言葉を食品スーパー等でよく目にするが、何年前まではあまり見かけなかったように思う。

いつ頃の事かはつきりとは覚えていないが、農薬が健康に害を及ぼす可能性があるとの報道がなされ、それから無農薬の野菜や果物に注目が集まったと記憶している。

私が生まれた滋賀県は近江米の産地で7月頃にはヘリコプターによる農薬散布が行われる。実施前には外出禁止の放送が集落に響き、外で遊んでいると「早く家に入りなさい」と叱られたことを思い出す。

木村秋則さんがリンゴの無農薬栽培に挑戦されたきっかけは、奥様が農薬によって体調を崩されたことがきっかけで無農薬栽培に挑まれ、十年以上の歳月を

経て成功されたそう。

しかし、今思うことは、これまでに農薬や肥料を作りだし、私達が口にする農作物にとって大きな力となってきた物が、人間に害を与えるとすると、世の中はその害の排除に動き出した。私達にとって都合良くなるはずの物が、思いもよらない形でひっくり返された一例かもしれない。

ただ、木村秋則さんが注目されていることは、農薬が害になるという一点だけではなく、「無施肥」と「自然」ということも大事にされる。

「野生のリンゴ」という表現をされるが、自然そのものが育んだ木々や果実は現に有り、人間が手を加えずとも育ってきた事実、無農薬・無施肥栽培のヒントを見つけられたのかもしれない。

様々な生命が自然に育まれる中で、私も、自分の思いを超えた「いのち」に育まれてきたのではないかと感ずる。

現在に至るまで支えられてきた背景に、改めて眼を向かせていただいた言葉であった。

(大橋 伊知郎記)

## 日誌

8月13日～16日  
8月19日  
8月27日・28日  
8月27日  
8月29日  
9月4日

盂蘭盆会  
混声合唱団「エコー」練習  
宗祖忌  
仏教青年会主催バーベキュー大会  
(参加者 171名)  
責任役員会  
東京教区研修会  
(新横浜グレースホテル・大谷顧問・木村主任参加)

9月4日～8日 本山 第十一次聞法推進員養成研修会  
(高橋参加)  
9月5日 『歎異抄』に聞く 講師 宗 正元師  
9月7日・8日 中興忌  
9月9日 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 脇阪住職  
9月12日 仏教青年会「歎異抄」に聞く  
講師 宗 正元師  
9月12日 本山 式務衆講習会(住職・蓮井参加)  
9月13日 婦人会聞法会

# 秋のひととき 婦人会だまり

第336号

婦人会専用口座：  
名義 西徳寺婦人会  
番号 10030 239 82431

## 西徳寺報恩講奉讃法座 婦人会主催 玉川奈々福のほとばしる浪花節を楽しむ！



浪曲師 玉川奈々福 (撮影：御堂義乘)



曲師 沢村豊子 (撮影：田島空)

一昨年、西徳寺仏教青年会主催で浪曲をご披露、大好評をいただいた玉川奈々福さんにふたたびうなっていたくことになりました。曲師(浪曲の三味線)は、奈々福さんとはまるで漫才の相手のように息の合った名コンビにして、名人の誉高い沢村豊子さんです。

演目は、築地本願寺からのご依頼で、今年、奈々福さん自身が作った『親鸞聖人御伝記 六角堂示現の巻』と、これも奈々福さん自作のファンタジックで切ない物語『金魚夢幻』。

秋のひととき、不思議な語りの世界に心をあそばせてみませんか。たくさんの方のご来場、お待ちしております。

日時 11月5日(日) 午後1時30分開演  
場所 西徳寺本堂にて、無料

## 婦人会食事会ご案内 ～大衆演劇観劇会～

日時 平成29年11月15日(水) 午後12時～(11時30分、現地集合)  
場所 浅草 木馬館  
親睦会 浅草 釜飯 麻鳥(アサドリ)  
会費 6,000円  
締め切り 10月18日(水) お問い合わせは担当・蓮井まで

## 次回聞法会のご案内

日時 平成29年12月13日(水) 午後1時～3時  
場所 西徳寺 星月の間  
法話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)  
「弥陀の回向の御名なれば 功德は十方にみちたまう」  
最高顧問 大谷 義博  
蓮井 邦宗



# 掲示板

平成29年10月

1日(日) 午後2時 城東ブロック会閏法会  
(金町地区センター)

3日(火) 午後4時 総代会

7日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習

8日(日) 午後2時 城西ブロック会閏法会  
(中野区商工会館)

14日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習  
午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 木村主任

15日(日)

台東区合唱祭

(東京藝術大学・混声合唱団「エコー」出演)

17日(火) 午後1時半

『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師

18日(水) 午後1時

婦人会閏法会

21日(土) 午後1時半

定例閏法会

24日(火) 午後7時

仏教青年会座談会

25日(水) 午前10時

仏具磨き

29日(日) 午後2時

城南ブロック会閏法会

(三軒茶屋・レンタルスペースSF)

午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習

## 仏教青年会主催バーベキュー大会

去る8月27日(日)に30余年続くバーベキュー大会が開催されました。今年は服部征夫台東区長もお見えになり、総勢171名の参加者のもと賑やかに行われました。

本堂での開会式では正信偈のお勤めのあと、脇阪住職より「皆さんは今日、家を出るときに『行ってきます』と言って出てきたと思います。そう言って出てこられるのは、安心して帰るお家があるから。元気よくお寺に来られたことを大切にしてください」と挨拶がありました。住職の呼びかけに、子ども達は大きな声で返事をしていました。

開会式の後はいよいよバーベキュー開始。今回も焼肉の他に焼き氷・花火・スイカ割りを用意し、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

今回、皆様からいただきました会費、寄付金は合計で32万1300円となりました。今後東日本大震災で甚大な被害に遭われました方々への義援金として、福島県自治体に送金する予定です。

また、寄付金の他に、様々な方からの食材のご寄付と後片付け作業など、多大なるご協力をいただいたおかげで無事に開催できました。誠にありがとうございました。また来年もお誘いあわせの上、ご参加ください。

(高橋 淳 記)



## えこお志お礼

練馬区 山本 雅彦 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



## 編集後記

9月13日、築地本願寺を会所に開催された「ふしだんせっきょう節談説教布教大会」に参加させて頂きました。2会場に分かれて13人ので講師による布教が行われ、満堂の来場者が熱心に耳を傾けておられました。

「節談説教」は、言葉による理解に加え、身体に感じられることを念頭においた「情念の説教」ともいわれるそうです。情熱があふれ、迫力ある語り口に、聴聞者の方々も惹きつけられていました。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

**HP** <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
(メールでも結構です)

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)